

令和元年度データ分析 (令和2年度事業) 結果概要

I. 分析資料の構成等

1. 納品物

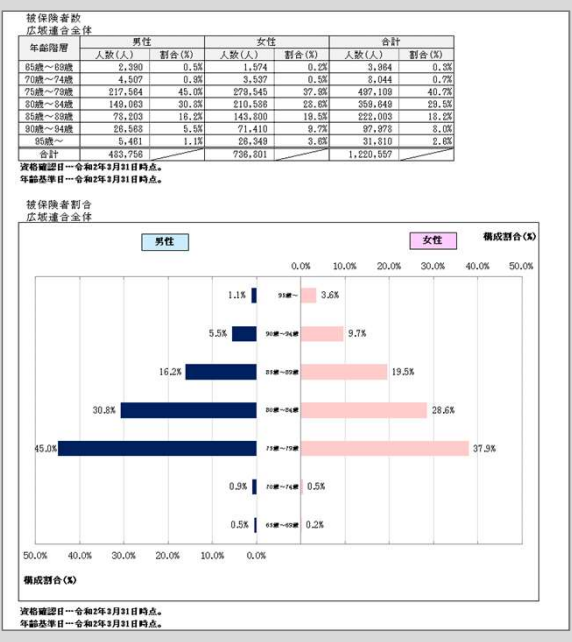
- ① カラーで印刷製本した報告書（A3ファイル）・・・5セット
- ② ①のデータ（Excelの表・グラフ）を保存したDVD・・・1枚

2. リンク集

納品したExcelデータの一番目に「リンク集」を作成しています。
仕様書に基づく分析内容・分析項目に対して、そのExcelファイル名・シート名とリンク先を一覧にしています。
クリックすれば、該当のシートを開くことができます。

分析内容	分析項目	Excelファイル名	Excelシート名	Excelリンク
集計定義	集計定義	■集計定義.xlsx	集計定義	1.基礎統計.xlsx#集計定義A1
	地図		地図	1.基礎統計.xlsx#地図A1
1.基礎統計	被保険者数	被保険者数 広域連合全体	被保険者数	1.基礎統計.xlsx#被保険者数A1
			被保険者数 地区別	1.基礎統計.xlsx#地区別_被保険者数A1
			被保険者数 市区町村別	1.基礎統計.xlsx#市区町村別_被保険者数A1
			被保険者数 市区町村別 MAP	1.基礎統計.xlsx#市区町村別_被保険者数MAPA1
	介護保険の状況	介護保険の状況 広域連合全体	介護認定率	1.基礎統計.xlsx#介護認定率A1
			地区別_介護認定率	1.基礎統計.xlsx#地区別_介護認定率A1
			市区町村別_介護認定率	1.基礎統計.xlsx#市区町村別_介護認定率A1
			介護疾病別有病状況	1.基礎統計.xlsx#介護疾病別有病状況A1
			地区別_介護疾病別有病状況	1.基礎統計.xlsx#地区別_介護疾病別有病状況A1
			市区町村別_介護疾病別有病状況	1.基礎統計.xlsx#市区町村別_介護疾病別有病状況A1
介護疾病別有病状況	介護疾病別有病状況	標準化死亡比	1.基礎統計.xlsx#標準化死亡比A1	
		地区別_標準化死亡比	1.基礎統計.xlsx#地区別_標準化死亡比A1	
		市区町村別_標準化死亡比	1.基礎統計.xlsx#市区町村別_標準化死亡比A1	
		疾病別死因割合	1.基礎統計.xlsx#疾病別死因割合A1	
		地区別_疾病別死因割合	1.基礎統計.xlsx#地区別_疾病別死因割合A1	
		市区町村別_疾病別死因割合	1.基礎統計.xlsx#市区町村別_疾病別死因割合A1	
		長期入院	1.基礎統計.xlsx#長期入院A1	
		地区別_長期入院	1.基礎統計.xlsx#地区別_長期入院A1	
		市区町村別_長期入院	1.基礎統計.xlsx#市区町村別_長期入院A1	
		長期入院時年齢	1.基礎統計.xlsx#地区別_長期入院時年齢A1	
市区町村別_長期入院時年齢	1.基礎統計.xlsx#市区町村別_長期入院時年齢A1			

クリックすると、そのシートが開けます。



I. 分析資料の構成等

3. 集計定義

納品したExcelデータの2番目に「集計定義」を作成しています。

仕様書に基づく分析内容・分析項目に対して、それぞれの集計の仕方をまとめています。

令和元年度のレセプトデータ（医科・DPC・歯科・調剤）、健診データ、被保険者マスタ、KDBデータで集計しています。

【集計定義】

1. 基礎統計

(1) 被保険者数

資格確認日…令和2年3月31日時点。
年齢基準日…令和2年3月31日時点。

(2) 介護保険の状況

出典…令和元年度 国保データベースシステム(KDB)「地域の全体像の把握」
※KDBデータが欠損している地区、市区町村は「-」と表示している。

(3) 標準化死亡率

出典…令和元年度 国保データベースシステム(KDB)「地域の全体像の把握」

(4) 主たる死因の状況

出典…令和元年度 国保データベースシステム(KDB)「地域の全体像の把握」

(5) 長期入院の状況

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)の電子レセプト。対象診療年月は平成31年4月~令和2年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。
長期入院…レセプトに記載されている入院年月日から求めた入院月数が8カ月以上の患者数。
長期入院患者の年齢基準日…令和2年3月31日時点。
長期入院患者の入院時年齢基準日…入院時の年齢(入院した時点の日)。

2. 医療費情報分析

2-1から2-14を通して、資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。の広域連合全体の被保険者数・患者数…分析期間内で異動が発生した場合、地区・市広域連合全体は実入数を集計。そのため、地患者数は一致しない。

2-1. 医療費の状況

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。対象資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。
年齢基準日…令和2年3月31日時点。

2-2. 高額レセプトの件数及び医療費

(1) 高額レセプトの件数及び割合

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。対象資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。
医療費全体…データ化範囲(分析対象)全体での医療費。
高額レセプトの医療費…高額(5万円以上)レセプトの医療費。
その他レセプトの医療費…高額(5万円以上)レセプト以外の医療費。

(2) 高額レセプトの年齢層別集計

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。対象資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。
年齢基準日…令和2年3月31日時点。

(3) 高額レセプト発生患者の疾病傾向

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。対象資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。
主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類ごとに集計。
医療費…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトの医療費(高額レセプトに患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医



I.分析資料の構成等

4. 構成

分析の構成は、分析項目ごとに、

- ①大阪府後期高齢者医療広域連合全体
- ②8医療圏
- ③市区町村別【一部市町村別（区なし）】

に集計して作成しています。

広域連合全体

8医療圏と合計

市区町村と合計
※大阪市と堺市の合計あり

年齢階層	A 被保険者 数(人)	B レセプト件数(件)			C 医療費 (円)	D 患者数 (人)	C/A 被保険者 一人当たりの 医療費 (円)	C/B レセプト 一件当たりの 医療費 (円)	C/D 被保険者 一人当たりの レセプト 件数(件)	B/A 患者数に 占める割合	D/A 患者数に 占める割合	
		入院外	入院	調剤								
65歳~69歳	4,073	56,122	5,688	37,180	88,883	7,461,630	3,828	1,811,822	75,373	1,800,411	24.3	96.4%
70歳~74歳	8,248	128,788	11,618	83,000	222,406	2,670,861	321	108,125	2,329	2,562,736	11.6	94.5%
75歳~79歳	502,368	7,388,878	244,219	4,438	7,633,525	15,445,936	30	15,296,647	505,897	15,445,936	0.2	96.4%
80歳~84歳	384,377	6,281,780	267,057	3,805	6,548,637	16,989,989	44	14,942,042	363,815	16,989,989	0.2	94.5%
85歳~89歳	229,858	8,754,828	233,550	2,444	9,018,722	20,345,500	88	20,345,500	229,858	20,345,500	0.4	94.5%
90歳~	38,028	416,821	54,258	311	471,390	1,253,888	33	1,253,888	38,028	1,253,888	0.3	94.5%
合計	1,253,888	18,448,396	951,034	12,277	19,411,707	46,500,000	38	46,500,000	1,253,888	46,500,000	0.8	96.4%

地区	A 被保険者 数(人)	B レセプト件数(件)			C 医療費 (円)	D 患者数 (人)	C/A 被保険者 一人当たりの 医療費 (円)	C/B レセプト 一件当たりの 医療費 (円)	C/D 被保険者 一人当たりの レセプト 件数(件)	B/A 患者数に 占める割合	D/A 患者数に 占める割合
		入院外	入院	調剤							
1 豊後医療圏	146,380	2,847,816	101,284	1,511,549	3,359,365	22,951,040	156	147,163	1,477	14,494	9.9%
2 三島医療圏	109,325	1,639,549	53,123	1,149,892	2,789,441	25,450,199	233	105,545	452	1,925	11.6%
3 北河内医療圏	174,608	2,187,509	121,228	1,435,797	4,323,506	24,708,999	139	134,240	1,000	7,216	7.4%
4 中河内医療圏	135,135	1,985,780	84,101	1,311,685	3,241,468	18,565,999	133	131,818	827	519	94.5%
5 南河内医療圏	100,785	1,541,685	74,877	929,870	2,506,542	18,565,999	180	95,648	829	118	33.3%
6 河内医療圏	125,950	1,993,481	100,078	1,159,879	3,150,458	18,565,999	112	116,745	873	332	35.4%
7 泉州医療圏	159,240	1,918,283	112,105	1,183,248	3,185,538	18,565,999	125	120,840	917	338	37.2%
8 大塚市医療圏	358,408	5,681,887	274,352	3,578,547	9,260,434	57,618,999	147	147,847	1,000	728	72.8%
広域連合全体	1,253,888	18,448,396	951,034	12,296,647	46,500,000	1,182,284	882,814	33,813	827,306	26.1	95.2%



市区町村	A 被保険者 数(人)	B レセプト件数(件)		C 医療費 (円)	D 患者数 (人)	C/A 被保険者 一人当たりの 医療費 (円)
		入院外	入院			
1 大阪市	358,408	5,681,887	274,352	9,260,434	147	147,847
2 堺市	15,481	207,424	9,326	422,849	14	29,346
3 福島区	13,581	122,284	8,558	225,248	14	16,618
4 此花区	9,219	150,428	3,247	176,675	11	19,171
5 西成区	8,385	111,933	5,388	127,321	9	15,201
6 浪速区	12,149	179,284	9,835	201,124	13	15,736
7 大正区	10,758	160,602	8,535	179,137	10	17,613
8 天王寺区	8,888	129,211	5,988	144,199	9	16,225
9 船場区	10,490	149,204	4,008	164,212	10	16,611
10 西淀川区	10,375	150,698	8,407	169,105	10	16,311
11 東淀川区	22,549	341,722	15,324	357,046	12	29,754
12 東成区	11,782	176,752	8,589	185,341	12	15,859
13 旭区	20,490	315,814	18,007	333,821	14	23,844
14 旭区	15,387	240,485	10,938	251,423	11	22,296
15 鶴見区	34,418	377,778	17,771	395,549	17	23,250
16 阿倍野区	18,431	268,522	11,112	279,634	11	25,362
17 住吉区	23,383	378,388	18,113	396,501	15	26,467
18 東淀川区	21,155	340,522	15,028	355,550	15	23,700
19 東淀川区	14,024	215,753	12,956	228,709	11	20,709
20 深川区	31,797	335,384	18,935	354,319	16	22,134
21 鶴見区	14,535	229,338	10,511	239,849	10	23,385
22 住吉区	12,538	225,847	14,222	240,069	14	19,137
23 平野区	30,887	455,121	21,828	476,949	18	26,467
24 北区	13,125	195,254	9,862	205,116	9	22,790
25 中区	9,097	133,088	8,835	141,923	8	17,811
26 東区	185,950	1,881,439	109,072	1,990,511	109	18,266
27 東淀川区	21,254	314,797	18,328	333,125	18	18,341
28 東淀川区	22,539	311,655	18,422	330,077	18	18,341
29 東淀川区	14,381	222,219	11,117	233,336	11	21,467
30 東淀川区	20,112	303,271	15,028	318,299	15	21,183
31 東淀川区	25,713	311,655	18,422	330,077	18	18,341
32 東淀川区	14,381	222,219	11,117	233,336	11	21,467
33 東淀川区	6,212	88,181	5,527	93,708	5	18,796
34 東淀川区	29,822	403,260	22,321	425,581	22	19,262
35 東淀川区	27,544	329,398	18,235	347,633	18	19,262
36 東淀川区	18,052	260,221	11,110	271,331	11	24,611
37 東淀川区	46,477	775,265	33,124	808,389	33	24,500
38 東淀川区	10,388	188,659	8,401	197,060	8	24,500
39 東淀川区	27,388	381,928	41,721	423,649	41	15,271
40 東淀川区	36,315	535,845	29,285	565,130	29	19,399
41 東淀川区	41,200	636,812	29,285	666,097	29	22,969
42 東淀川区	16,052	260,221	11,110	271,331	11	24,611
43 東淀川区	46,477	775,265	33,124	808,389	33	24,500
44 東淀川区	10,388	188,659	8,401	197,060	8	24,500
45 東淀川区	14,459	218,057	12,325	230,382	12	19,399
46 東淀川区	18,258	267,284	14,222	281,506	14	20,488
47 東淀川区	29,741	524,138	25,235	549,373	25	21,834
48 東淀川区	19,882	302,444	18,024	320,468	18	17,811
49 東淀川区	20,040	305,249	19,118	324,367	19	16,541
50 東淀川区	17,274	253,227	12,026	265,253	12	22,134
51 東淀川区	25,482	334,420	19,928	354,348	19	18,611
52 東淀川区	19,280	289,205	19,224	308,429	19	16,225
53 東淀川区	10,889	172,282	7,425	179,707	7	25,362
54 東淀川区	18,288	265,630	12,728	278,358	12	15,271
55 東淀川区	18,180	224,281	13,328	237,609	13	13,328
56 東淀川区	11,215	188,271	7,425	195,696	7	27,796
57 東淀川区	8,538	138,727	7,238	145,965	7	17,271
58 東淀川区	10,258	154,112	7,007	161,119	7	15,481
59 東淀川区	29,715	113,189	51,144	164,333	51	5,527
60 東淀川区	8,478	138,218	8,001	146,219	8	17,271
61 東淀川区	8,144	118,883	8,117	127,000	8	15,481
62 東淀川区	16,080	179,750	7,411	187,161	7	27,796
63 東淀川区	131,488	8,848	8,848	9,732	8	11,811
64 東淀川区	8,348	135,313	7,238	142,551	7	17,271
65 東淀川区	4,261	69,005	3,443	72,448	3	24,134
66 東淀川区	4,888	67,414	3,000	70,414	3	23,385
67 東淀川区	6,982	25,842	1,388	27,230	1	27,230
68 東淀川区	2,324	45,042	2,228	47,270	2	23,385
69 東淀川区	8,253	25,273	4,925	30,198	4	7,541
70 東淀川区	1,188	18,219	86	18,305	86	211
71 東淀川区	3,467	50,884	3,228	54,112	3	18,052
72 東淀川区	2,451	29,083	1,535	30,614	1	30,614
73 東淀川区	2,848	40,181	1,894	42,075	1	42,075
74 東淀川区	1,227	17,738	1,111	18,849	1	18,849
広域連合全体	1,253,888	18,448,396	951,034	19,411,707	95	154,811



II. 課題把握

1. 大阪府後期高齢者医療広域連合の課題

分析結果を踏まえた課題と提言をまとめました。

1. 基礎統計

- ① 介護認定率
介護認定率は21.4%である（前年度20.9%）。地区別で最も高いのは堺市医療圏で24.6%（前年度も堺市医療圏で24.0%）、最も低いのは三島医療圏で18.4%（前年度も三島医療圏で17.6%）である。
- ② 標準化死亡比
標準化死亡比は男性が106.2、女性が104.5である（前年度同値）。地区別で最も高いのは男女ともに大阪市医療圏で男性は120.2、女性は110.3である（前年度同値）。最も低いのは男女ともに豊能医療圏で男性は90.4、女性は95.4である（前年度同値）。

前年度（平成30年度）

地区	介護認定率	介護認定者の疾病別有病状況（%）								標準化死亡比	
		糖尿病	高血圧症	脂質異常症	心臓病	脳疾患	悪性新生物	筋・骨格	精神	男性	女性
豊能医療圏	20.2%	2.7%	4.4%	3.2%	5.1%	2.7%	1.4%	4.8%	3.2%	90.4	95.4
三島医療圏	17.6%	9.1%	17.6%	11.4%	20.4%	9.4%	4.6%	18.6%	12.7%	93.6	97.1
北河内医療圏	19.5%	3.1%	5.2%	3.7%	5.9%	2.9%	1.7%	5.6%	3.5%	101.3	104.1
中河内医療圏	22.6%	2.1%	3.3%	2.3%	3.8%	2.0%	1.0%	3.5%	2.2%	106.5	105.9
南河内医療圏	20.8%	6.3%	12.5%	8.3%	14.4%	6.0%	3.5%	13.3%	7.8%	98.6	99.2
堺市医療圏	24.0%	2.7%	4.6%	3.3%	5.2%	2.6%	1.5%	5.1%	3.1%	104.7	103.5
泉州医療圏	20.7%	3.4%	6.2%	4.1%	7.0%	3.3%	1.8%	6.5%	4.1%	107.7	108.3
大阪市医療圏	-	-	-	-	-	-	-	-	-	120.2	110.3
広域連合全体	20.9%	3.8%	6.8%	4.6%	7.8%	3.6%	2.0%	7.2%	4.6%	106.2	104.5

令和元年度

地区	介護認定率	介護認定者の疾病別有病状況（%）								標準化死亡比	
		糖尿病	高血圧症	脂質異常症	心臓病	脳疾患	悪性新生物	筋・骨格	精神	男性	女性
豊能医療圏	↗20.8%	17.0%	36.6%	23.9%	42.2%	16.2%	9.3%	38.5%	25.1%	90.4	95.4
三島医療圏	↗18.4%	23.3%	48.2%	30.9%	55.4%	23.9%	12.6%	50.7%	34.7%	93.6	97.1
北河内医療圏	↗20.1%	8.0%	16.0%	10.5%	18.2%	7.4%	4.3%	17.0%	10.8%	101.3	104.1
中河内医療圏	↗23.2%	4.8%	9.3%	6.0%	10.7%	4.6%	2.4%	9.9%	6.0%	106.5	105.9
南河内医療圏	↗21.2%	10.2%	21.7%	14.1%	24.8%	9.7%	5.8%	22.7%	13.9%	98.6	99.2
堺市医療圏	↗24.6%	7.7%	16.3%	10.7%	18.4%	7.5%	4.2%	17.7%	10.5%	104.7	103.5
泉州医療圏	↗21.3%	6.5%	13.4%	8.6%	15.3%	6.4%	3.5%	14.0%	8.4%	107.7	108.3
大阪市医療圏	-	-	-	-	-	-	-	-	-	120.2	110.3
広域連合全体	↗21.4%	10.6%	22.1%	14.3%	25.3%	10.3%	5.7%	23.3%	14.9%	106.2	104.5

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

※標準化死亡比は前年度と同じ

介護認定率と標準化死亡比はKDBデータを使用。介護については大阪市と枚方市のデータが欠損。介護認定者の疾病有病状況については、平成30年度と令和元年度で値が違いすぎるため比較ができない。

データヘルス計画によると、介護認定率は、平成18年（17.9%）と平成28年度（20.7%）の対比では2.8ポイント増で平均すると年に0.28ポイント増えたが、その後の2年間では0.20ポイントであり、上昇はやや抑制されている（参考：上記KDBデータでは、平成30年度から令和元年度で0.5ポイント増えている）。

介護認定者の疾病別有病状況では、いずれの医療圏においても心臓病の割合が多い。

なお、2025年に向けては団塊世代が後期高齢者に流入した際に数値が大きく跳ね上がる可能性がある。保健事業を実施できる環境の整備が急務である。

Ⅱ.課題把握

2. 医科医療費の状況

- ① 被保険者一人当たり医療費
被保険者一人当たりの医療費は882,614円である（前年度862,125円）。地区別で最も高いのは泉州医療圏で917,936円（前年度も泉州医療圏で894,538円）、最も低いのは中河内医療圏で827,519円（前年度は北河内医療圏で798,000円。前年度の中河内医療圏は803,926円）である。
- ② レセプト一件当たりの医療費
レセプト一件当たりの医療費は33,813円である（前年度33,450円）。地区別で最も高いのは泉州医療圏で37,241円（前年度も泉州医療圏で36,751円）、最も低いのは豊能医療圏で30,947円（前年度も豊能医療圏で30,766円）である。
- ③ 患者一人当たりの医療費
患者一人当たりの医療費は927,306円である（前年度904,357円）。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で989,046円（前年度も大阪市医療圏で964,494円）、最も低いのは中河内医療圏で872,999円（前年度は北河内医療圏で843,780円。前年度の中河内医療圏は846,171円）である。
- ④ 被保険者一人当たりのレセプト件数
被保険者一人当たりのレセプト件数は26.1件（前年度25.8件）である。地区別で最も多いのは豊能医療圏で27.0件（前年度も豊能医療圏で26.7件）、最も少ないのは堺市医療圏で24.6件（前年度も堺市医療圏で24.2件）である。
- ⑤ 患者割合
患者割合は95.2%（前年度95.3%）である。地区別で最も高いのは泉州医療圏で95.0%（前年度も泉州医療圏で95.4%）、最も低いのは大阪市医療圏で92.4%（前年度は堺市医療圏で92.67%。前年度の大阪市医療圏は92.71%）である。

地区	調整前	調整後
泉州医療圏	894,538	867,567
大阪市医療圏	894,214	878,425
堺市医療圏	860,121	864,039
三島医療圏	855,085	852,929
豊能医療圏	822,732	861,685
南河内医療圏	810,033	859,839
中河内医療圏	803,926	848,448
北河内医療圏	798,000	847,855
広域連合全体	862,125	862,125

地区	調整前	調整後
泉州医療圏	↗917,936	↗886,330
大阪市医療圏	↗914,091	↗899,122
堺市医療圏	↗873,822	↗884,700
三島医療圏	↗868,146	↗873,345
豊能医療圏	↗834,603	↗882,260
南河内医療圏	↗829,118	↗880,148
北河内医療圏	↗828,911	↗869,068
中河内医療圏	↗827,519	↗870,703
広域連合全体	↗882,614	↗882,614

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

豊能医療圏では、被保険者一人当たりのレセプト件数は最も多いが、レセプト一件当たりの医療費は最も低い。
豊能医療圏は、健診受診率が最も高く、標準化死亡比が最も低いという状況であるが、関連があると言えるであろうか。
また、透析患者割合は最も低く、在宅医療患者割合は医科・歯科ともに高い。

Ⅱ.課題把握

3. 高額レセプトの件数及び医療費

- ① 高額レセプト件数割合 (%)
 高額レセプト件数割合は1.52% (前年度同値) である。地区別で最も高いのは泉州医療圏で1.73% (前年度は堺市医療圏で1.69%。前年度の泉州医療圏は1.65%)、最も低いのは中河内医療圏で1.36% (前年度も中河内医療圏で1.31%) である。
- ② 高額レセプト医療費割合 (%)
 高額レセプト医療費割合は41.3% (前年度40.3%) である。地区別で最も高いのは堺市医療圏で42.3% (前年度も堺市医療圏で41.7%)、最も低いのは中河内医療圏で39.4% (前年度も中河内医療圏で38.2%) である。

③ 高額レセプト発生患者の疾病傾向

患者一人当たりの医療費順

順位	平成30年度	令和元年度
1位	腎不全	その他の外耳疾患
2位	くも膜下出血	知的障害<精神遅滞>
3位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	腎不全
4位	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	くも膜下出血
5位	脳動脈硬化 (症)	白血病

患者数順

順位	平成30年度	令和元年度
1位	骨折	骨折
2位	その他の心疾患	その他の心疾患
3位	その他の悪性新生物<腫瘍>	その他の悪性新生物<腫瘍>
4位	その他の呼吸器系の疾患	脳梗塞
5位	脳梗塞	その他の呼吸器系の疾患

高額レセプト割合【平成30年度】

高額レセプト割合【令和元年度】

順位	地区	総レセプト件数 に占める割合	総医療費に 占める割合	順位	地区	総レセプト件数 に占める割合	総医療費に 占める割合
1位	堺市医療圏	1.69%	41.7%	1位	泉州医療圏	↗1.73%	↗41.9%
2位	泉州医療圏	1.65%	40.6%	2位	堺市医療圏	→1.69%	↗42.3%
3位	三島医療圏	1.52%	41.7%	3位	大阪市医療圏	↗1.53%	↗41.1%
4位	大阪市医療圏	1.49%	40.1%	4位	三島医療圏	→1.52%	↗42.1%
5位	南河内医療圏	1.43%	39.2%	5位	北河内医療圏	↗1.48%	↗41.3%
6位	北河内医療圏	1.41%	39.8%	6位	南河内医療圏	↗1.47%	↗40.3%
7位	豊能医療圏	1.37%	40.9%	7位	豊能医療圏	↗1.40%	↗41.9%
8位	中河内医療圏	1.31%	38.2%	8位	中河内医療圏	↗1.36%	↗39.4%
	広域連合全体	1.48%	40.3%		広域連合全体	↗1.52%	↗41.3%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

Ⅱ.課題把握

4. 疾病別医療費統計 大分類・中分類

患者数の多い疾病【大分類】

	平成30年度	令和元年度
1位	循環器系の疾患	循環器系の疾患
2位	消化器系の疾患	消化器系の疾患
3位	内分泌,栄養及び代謝疾患	内分泌,栄養及び代謝疾患

患者数の多い疾病【中分類】

	平成30年度	令和元年度
1位	高血圧性疾患	高血圧性疾患
2位	その他の消化器系の疾患	その他の消化器系の疾患
3位	糖尿病	糖尿病

5. 生活習慣病にかかる医療費等の状況

- ① 生活習慣病患者割合は83.8%（前年度83.6%）である。地区別で最も高いのは泉州医療圏で83.9%（前年度も泉州医療圏で83.8%）、最も低いのは堺市医療圏で80.5%（前年度も堺市医療圏で80.1%）である。
- ② 患者一人当たりの生活習慣病医療費
患者一人当たりの生活習慣病医療費は219,667円（前年度219,782円）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で236,314円（前年度も大阪市医療圏で235,800円）、最も低いのは中河内医療圏で204,581円（前年度も中河内医療圏で203,175円）である。

被保険者に占める割合が多い疾病順

順位	平成30年度	平成30年度	令和元年度
1位	高血圧性疾患	65.4%	↗ 65.7%
2位	糖尿病	48.5%	↗ 49.6%
3位	脂質異常症	42.4%	↗ 42.9%
4位	虚血性心疾患	26.4%	↘ 26.2%
5位	脳梗塞	21.5%	↘ 21.1%
6位	動脈硬化（症）	14.0%	↘ 13.7%
7位	腎不全	8.6%	↗ 8.9%
8位	脳内出血	3.6%	→ 3.6%
9位	くも膜下出血	0.4%	→ 0.4%
10位	脳動脈硬化（症）	0.4%	→ 0.4%

※順位の変動なし

※値の左側の矢印は、
前年度と比較しての増減を表す

Ⅱ.課題把握

生活習慣病患者割合（被保険者数に占める割合）

順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度 ※
1位	泉州医療圏	83.78%	泉州医療圏	↗ 83.91%
2位	中河内医療圏	83.33%	中河内医療圏	↗ 83.50%
3位	南河内医療圏	83.17%	北河内医療圏	↗ 83.14%
4位	北河内医療圏	82.70%	南河内医療圏	↘ 83.00%
5位	大阪市医療圏	82.69%	三島医療圏	↗ 82.65%
6位	三島医療圏	82.33%	大阪市医療圏	↘ 82.61%
7位	豊能医療圏	81.39%	豊能医療圏	↗ 81.55%
8位	堺市医療圏	80.13%	堺市医療圏	↗ 80.50%
	広域連合全体	83.58%	広域連合全体	↗ 83.76%

生活習慣病患者一人当たりの生活習慣病医療費

順位	地域	平成30年度	地域	令和元年度
1位	大阪市医療圏	235,800	大阪市医療圏	↗ 236,314
2位	堺市医療圏	230,982	堺市医療圏	↘ 226,480
3位	泉州医療圏	223,379	泉州医療圏	↘ 222,431
4位	北河内医療圏	212,247	北河内医療圏	↗ 213,237
5位	三島医療圏	210,704	豊能医療圏	↗ 209,288
6位	豊能医療圏	208,217	三島医療圏	↘ 207,564
7位	南河内医療圏	203,979	中河内医療圏	↗ 206,346
8位	中河内医療圏	203,175	南河内医療圏	↗ 204,581
	広域連合全体	219,782	広域連合全体	↘ 219,667

※値の左側の矢印は、
前年度と比較しての増減を表す

Ⅱ.課題把握

年齢調整前後の被保険者一人当たりの 生活習慣病医療費 【平成30年度】			年齢調整前後の被保険者一人当たりの 生活習慣病医療費 【令和元年度】		
地区	調整前	調整後	地区	調整前	調整後
豊能医療圏	169,471	180,406	豊能医療圏	↗170,676	↗180,996
三島医療圏	173,468	181,054	三島医療圏	↘171,375	↗181,388
北河内医療圏	175,523	181,695	北河内医療圏	↗177,292	↗182,022
中河内医療圏	169,326	179,129	中河内医療圏	↗172,315	↗180,125
南河内医療圏	169,643	182,641	南河内医療圏	↗169,804	↗183,005
堺市医療圏	185,082	186,135	堺市医療圏	↘182,324	↗186,210
泉州医療圏	187,137	186,745	泉州医療圏	↘186,645	↘186,429
大阪市医療圏	194,993	187,224	大阪市医療圏	↗195,242	↗187,453
広域連合全体	183,699	183,699	広域連合全体	↗184,002	↗184,002

※値の左側の矢印は、
前年度と比較しての増減を表す

各分析において生活習慣病患者が多数存在し、医療費も多額である。
その一方で健診受診率が低く、保健指導を必要とする対象者が見過ごされている可能性がある。
健診受診勧奨と保健指導の実施が必要である。

Ⅱ.課題把握

6. 歯科医療費の状況

①	被保険者一人当たり歯科医療費 被保険者一人当たりの歯科医療費は45,362円（前年度44,118円）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で47,272円（前年度も豊能医療圏で46,093円）、最も低いのは泉州医療圏で40,701円（前年度も泉州医療圏で39,665円）である。
②	レセプト一件当たりの歯科医療費 レセプト一件当たりの歯科医療費は15,672円である（前年度15,819円）。地区別で最も高いのは泉州医療圏で16,199円（前年度も泉州医療圏で16,446円）、最も低いのは三島医療圏で14,739円（前年度は豊能医療圏で14,940円。前年度の三島医療圏は14,942円）である。
③	患者一人当たりの医療費 患者一人当たりの医療費は78,874円である（前年度77,923円）。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で85,060円（前年度も大阪市医療圏で84,482円）、最も低いのは三島医療圏で72,116円（前年度も三島医療圏で70,749円）である。
④	被保険者一人当たりのレセプト件数 被保険者一人当たりのレセプト件数は2.89件（前年度2.79件）である。地区別で最も多いのは豊能医療圏で3.17件（前年度も豊能医療圏で3.09件）、最も少ないのは泉州医療圏で2.51件（前年度も泉州医療圏で2.41件）である。
⑤	患者割合 患者割合は57.5%（前年度56.6%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で62.0%（前年度も豊能医療圏で61.2%）、最も低いのは泉州医療圏で53.7%（前年度も泉州医療圏で52.8%）である。

年齢調整前後の被保険者一人当たりの歯科医療費
【平成30年度】

地区	調整前	調整後
豊能医療圏	46,093	43,998
三島医療圏	40,987	43,827
北河内医療圏	40,561	43,750
中河内医療圏	44,865	43,805
南河内医療圏	42,776	43,919
堺市医療圏	44,672	43,950
泉州医療圏	39,665	43,998
大阪市医療圏	45,418	44,188
広域連合全体	44,118	44,118

年齢調整前後の被保険者一人当たりの歯科医療費
【令和元年度】

地区	調整前	調整後
豊能医療圏	↗47,272	↗45,399
三島医療圏	↗42,434	↗45,254
北河内医療圏	↗41,326	↗45,184
中河内医療圏	↗46,808	↗45,239
南河内医療圏	↗44,053	↗45,334
堺市医療圏	↗45,911	↗45,370
泉州医療圏	↗40,701	↗45,389
大阪市医療圏	↗46,558	↗45,586
広域連合全体	↗45,362	↗45,362

※値の左側の矢印は、
前年度と比較しての増減を表す

Ⅱ.課題把握

中分類による疾病別歯科医療費

患者割合順				
順位	平成30年度	割合	令和元年度	割合
1位	歯肉炎及び歯周疾患	49.5%	歯肉炎及び歯周疾患	50.5%
2位	その他の歯及び歯の支持組織の障害	35.0%	その他の歯及び歯の支持組織の障害	35.1%
3位	その他の損傷及びその他の外因の影響	30.5%	その他の損傷及びその他の外因の影響	30.9%
4位	う蝕	27.6%	う蝕	28.1%
5位	その他の消化器系の疾患	13.1%	その他の消化器系の疾患	13.5%

特定疾病別歯科医療費

特定疾病患者のうち歯科レセプトが発生している者の割合と一人当たり歯科医療費						
平成30年度				令和元年度		
順位	特定疾病	割合	1人当たり 医療費	令和元年度	割合	1人当たり 医療費
1位	気分障害	62.6%	88,567	気分障害	63.8%	89,051
2位	動脈硬化	62.2%	75,294	悪性新生物	63.5%	76,997
3位	悪性新生物	62.0%	76,209	動脈硬化	63.5%	75,814
4位	脂質異常症	60.2%	72,737	脂質異常症	61.3%	73,425
5位	脳血管疾患	59.6%	82,106	脳血管疾患	60.9%	82,544
6位	虚血性心疾患	58.9%	77,990	虚血性心疾患	60.2%	78,758
7位	糖尿病	58.8%	76,436	糖尿病	60.1%	77,084
8位	高血圧性疾患	57.7%	77,032	肺炎	59.1%	87,527
9位	肺炎	57.4%	86,568	高血圧性疾患	58.9%	77,876
10位	腎不全	53.9%	81,440	腎不全	55.3%	81,692

Ⅱ.課題把握

7. 医科健診分析

- ① 医科健診受診率(令和元年度通年有資格者)
医科健診受診率は20.6%（前年度21.5%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で29.3%（前年度も豊能医療圏で31.1%）、最も低いのは大阪市医療圏で13.1%（前年度も大阪市医療圏で13.7%）である。
- ② 健診異常値放置者割合
健診異常値放置者割合は1.17%（前年度1.14%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で1.59%（前年度も豊能医療圏で1.57%）、最も低いのは大阪市医療圏で0.72%（前年度も大阪市医療圏で0.68%）である。
- ③ 治療中断者割合
治療中断者割合は0.58%（前年度は0.52%）である。地区別で最も高いのは堺市医療圏で0.67%（前年度は大阪市医療圏で0.58%。堺市医療圏の前年度は0.52%）、最も低いのは三島医療圏で0.51%（前年度は南河内医療圏で0.45%。三島医療圏の前年度は0.45%）である。

医科健診受診率				健診異常値放置者割合			
順位	地区	平成30年度	令和元年度	順位	地区	平成30年度	令和元年度
1位	豊能医療圏	31.1%	↘29.3%	1位	豊能医療圏	1.57%	↗1.59%
2位	三島医療圏	28.8%	↘28.2%	2位	三島医療圏	1.49%	↗1.54%
3位	南河内医療圏	27.1%	↘26.5%	3位	北河内医療圏	1.47%	↘1.44%
4位	北河内医療圏	23.4%	↘22.5%	4位	南河内医療圏	1.28%	↗1.31%
5位	中河内医療圏	22.2%	↘21.2%	5位	中河内医療圏	1.17%	↗1.24%
6位	泉州医療圏	20.8%	↘20.5%	6位	堺市医療圏	1.16%	↘1.12%
7位	堺市医療圏	18.5%	↘17.5%	7位	泉州医療圏	1.06%	↗1.09%
8位	大阪市医療圏	13.7%	↘13.1%	8位	大阪市医療圏	0.68%	↗0.72%
	広域連合全体	21.5%	↘20.6%		広域連合全体	1.14%	↗1.17%

※順位の変動なし

※順位の変動なし

治療中断者割合				
順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度
1位	大阪市医療圏	0.58%	堺市医療圏	↗0.67%
2位	堺市医療圏	0.52%	大阪市医療圏	↗0.62%
3位	中河内医療圏	0.52%	北河内医療圏	↗0.58%
4位	泉州医療圏	0.50%	泉州医療圏	↗0.55%
5位	豊能医療圏	0.50%	豊能医療圏	↗0.55%
6位	北河内医療圏	0.48%	中河内医療圏	↗0.55%
7位	三島医療圏	0.45%	南河内医療圏	↗0.53%
8位	南河内医療圏	0.45%	三島医療圏	↗0.51%
	広域連合全体	0.52%	広域連合全体	↗0.58%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

Ⅱ.課題把握

8. 歯科健診分析

- ① 歯科健診受診率
 歯科健診受診率は13.4%（前年度は15.4%）である。地区別で最も高いのは三島医療圏で17.0%（前年度も三島医療圏で19.9%）、最も低いのは堺市医療圏で8.7%（前年度も堺市医療圏で9.8%）である。
- ② EAT10 3点以上該当者割合
 EAT10 3点以上該当者割合は10.0%（前年度は10.6%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で10.4%（前年度も大阪市医療圏で11.1%）、最も低いのは中河内医療圏で9.2%（前年度は三島医療圏で10.2%。中河内医療圏の前年度は10.6%）である。
- ③ EAT10 3点以上該当者の高齢者の疾病患者割合
 EAT10 3点以上該当者の高齢者の疾病患者割合は86.5%（前年度は86.4%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で89.5%（前年度も大阪市医療圏で88.6%）、最も低いのは泉州医療圏で84.5%（前年度は南河内医療圏で84.5%。泉州医療圏の前年度は85.1%）である。

歯科健診受診率			
順位	地区	平成30年度	令和元年度
1位	三島医療圏	19.9%	↘17.0%
2位	中河内医療圏	18.8%	↘16.5%
3位	豊能医療圏	18.0%	↘15.5%
4位	南河内医療圏	16.5%	↘14.1%
5位	泉州医療圏	16.0%	↘14.0%
6位	大阪市医療圏	13.9%	↘12.2%
7位	北河内医療圏	13.8%	↘11.7%
8位	堺市医療圏	9.8%	↘8.7%
	広域連合全体	15.4%	↘13.4%

EAT10 3点以上該当者割合				
順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度
1位	大阪市医療圏	11.1%	大阪市医療圏	↘10.4%
2位	泉州医療圏	10.8%	豊能医療圏	↘10.3%
3位	南河内医療圏	10.7%	堺市医療圏	↘10.1%
4位	中河内医療圏	10.6%	南河内医療圏	↘10.1%
5位	豊能医療圏	10.4%	三島医療圏	↘9.9%
6位	堺市医療圏	10.4%	北河内医療圏	↘9.8%
7位	北河内医療圏	10.2%	泉州医療圏	↘9.7%
8位	三島医療圏	10.2%	中河内医療圏	↘9.2%
	広域連合全体	10.6%	広域連合全体	↘10.0%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

EAT10 3点以上該当者の高齢者の疾病患者割合				
順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度
1位	大阪市医療圏	88.6%	大阪市医療圏	↗89.5%
2位	堺市医療圏	86.6%	南河内医療圏	↗86.1%
3位	三島医療圏	86.5%	北河内医療圏	↗86.0%
4位	豊能医療圏	86.2%	堺市医療圏	↘86.0%
5位	中河内医療圏	85.3%	中河内医療圏	→85.3%
6位	北河内医療圏	85.2%	豊能医療圏	↘85.3%
7位	泉州医療圏	85.1%	三島医療圏	↘84.9%
8位	南河内医療圏	84.5%	泉州医療圏	↘84.5%
	広域連合全体	86.4%	広域連合全体	↗86.5%

※詳細次頁

Ⅱ.課題把握

EAT10 3点以上該当者の 高齢者の疾病患者割合				疾病状況（総患者数に占める割合）				
順位 (R1)	地区	平成30年度	令和元年度	順位	疾病名	平成30年度	疾病名	令和元年度
1位	大阪市医療圏	88.6%	89.5%	1位	骨粗鬆症	49.3%	骨粗鬆症	50.5%
				2位	変形性脊椎症	44.0%	変形性脊椎症	44.0%
				3位	虚血性心疾患	35.9%	虚血性心疾患	36.2%
2位	南河内医療圏	84.5%	86.1%	1位	変形性脊椎症	39.8%	変形性脊椎症	37.4%
				2位	骨粗鬆症	39.2%	骨粗鬆症	36.3%
				3位	虚血性心疾患	31.4%	虚血性心疾患	29.9%
3位	北河内医療圏	85.2%	86.0%	1位	変形性脊椎症	42.6%	変形性脊椎症	39.7%
				2位	骨粗鬆症	37.6%	骨粗鬆症	38.0%
				3位	虚血性心疾患	32.3%	虚血性心疾患	32.4%
4位	堺市医療圏	86.6%	86.0%	1位	骨粗鬆症	43.2%	骨粗鬆症	41.7%
				2位	変形性脊椎症	39.5%	変形性脊椎症	38.2%
				3位	虚血性心疾患	32.0%	虚血性心疾患	31.3%
5位	中河内医療圏	85.3%	85.3%	1位	骨粗鬆症	42.7%	骨粗鬆症	41.5%
				2位	変形性脊椎症	40.2%	変形性脊椎症	39.9%
				3位	変形性膝関節症	32.6%	変形性膝関節症	32.6%
6位	豊能医療圏	86.2%	85.3%	1位	骨粗鬆症	42.4%	骨粗鬆症	42.9%
				2位	変形性脊椎症	39.3%	変形性脊椎症	39.7%
				3位	虚血性心疾患	32.4%	変形性膝関節症	32.5%
7位	三島医療圏	86.5%	84.9%	1位	変形性脊椎症	40.1%	変形性脊椎症	40.4%
				2位	骨粗鬆症	37.7%	骨粗鬆症	37.9%
				3位	虚血性心疾患	33.5%	虚血性心疾患	31.6%
8位	泉州医療圏	85.1%	84.5%	1位	骨粗鬆症	39.7%	骨粗鬆症	38.4%
				2位	変形性脊椎症	39.3%	変形性脊椎症	38.3%
				3位	虚血性心疾患	32.4%	虚血性心疾患	31.9%
	広域連合全体	86.4%	86.5%	1位	骨粗鬆症	42.7%	骨粗鬆症	42.5%
				2位	変形性脊椎症	41.2%	変形性脊椎症	40.5%
				3位	虚血性心疾患	33.3%	虚血性心疾患	32.7%

II. 課題把握

9. 糖尿病性腎症重症化予防に係る分析

- ① 透析患者割合
透析患者割合は0.9%（前年度同値）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で1.03%（前年度1.05%）、最も低いのは豊能医療圏で0.73%（前年度0.72%）である。
- ② 透析患者に占める生活習慣病起因の透析患者割合
透析患者に占める生活習慣病起因の透患者割合は67.5%（前年度66.8%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で68.4%（前年度は中河内医療圏で67.7%。大阪市医療圏の前年度は67.7%）、最も低いのは三島医療圏で65.4%（前年度は南河内医療圏で64.6%。三島医療圏の前年度は65.0%）である。

透析患者割合				透析患者に占める生活習慣病起因の患者割合				
順位	地区	平成30年度	令和元年度	順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度
1位	大阪市医療圏	1.05%	↘1.03%	1位	中河内医療圏	67.7%	大阪市医療圏	↗68.4%
2位	北河内医療圏	1.00%	↘0.99%	2位	大阪市医療圏	67.7%	中河内医療圏	↗68.1%
3位	堺市医療圏	0.96%	↘0.93%	3位	泉州医療圏	67.7%	泉州医療圏	↗68.1%
4位	泉州医療圏	0.94%	↘0.91%	4位	北河内医療圏	67.2%	南河内医療圏	↗68.0%
5位	南河内医療圏	0.88%	↘0.87%	5位	豊能医療圏	66.5%	豊能医療圏	↗67.7%
6位	中河内医療圏	0.84%	↗0.86%	6位	三島医療圏	65.0%	北河内医療圏	↘66.4%
7位	三島医療圏	0.80%	↘0.79%	7位	堺市医療圏	64.8%	堺市医療圏	↗66.0%
8位	豊能医療圏	0.72%	↗0.73%	8位	南河内医療圏	64.6%	三島医療圏	↗65.4%
	広域連合全体	0.93%	↘0.92%		広域連合全体	66.8%	広域連合全体	↗67.5%

※順位の変動なし

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

堺市医療圏を見ると介護認定率が高い。

医科健診受診率・歯科健診受診率が低く、健診異常値放置者、生活習慣病治療中断者も少なくない。EAT10 3点以上に該当する高齢者に多い疾病を持つ患者割合も高い。介護認定の理由トップの心臓病は全医療圏共通だが、多数の健診未受診者が存在するため、保健指導を必要とする対象者が見過ごされている可能性がある。透析患者も一定数あり、生活習慣病医療費も一人当たりの医療費も高額化している。最終的な介護予防を目指し、適切な健診受診と受療および重症化予防の取組が必要であると考えらる。

透析患者割合と医科健診受診率を見ると、健診受診率が高いほど透析患者割合は低い傾向がある。

また健診受診率は介護認定率にも関連しているようである。

健診受診率向上のための案内とともに、集いの場・通いの場におけるセミナーや体験会で直接指導型の受診勧奨や治療中断者へのアプローチなど検討する必要がある。

Ⅱ.課題把握

10. 高齢者の疾病傾向

- ① 高齢者の疾病医療費割合
高齢者の疾病医療費割合は21.9%（前年度22.4%）である。地区別で最も高いのは泉州医療圏で23.6%（前年度も泉州医療圏で24.0%）、最も低いのは南河内医療圏で20.5%（前年度も南河内医療圏で20.9%）である。
- ② 高齢者の疾病患者割合
高齢者の疾病患者割合は79.9%（前年度同値）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏82.7%（前年度も大阪市医療圏で同値）、最も低いのは北河内医療圏で78.3%（前年度も北河内医療圏で78.2%）である。
- ③ 高齢者の疾病患者一人当たりの医療費
高齢者の疾病患者一人当たりの医療費は253,731円（前年度253,077円）である。地区別で最も高いのは泉州医療圏で289,178円（前年度も泉州医療圏で285,214円）、最も低いのは南河内医療圏で228,357円（前年度も南河内医療圏で227,149円）である。

医療費割合(総医療費に占める割合)

順位	地区	平成30年度	令和元年度
1位	泉州医療圏	24.0%	↘23.6%
2位	堺市医療圏	24.0%	↘23.1%
3位	三島医療圏	22.8%	↘22.1%
4位	大阪市医療圏	22.3%	↘21.8%
5位	豊能医療圏	22.0%	↘21.7%
6位	中河内医療圏	21.6%	↘21.0%
7位	北河内医療圏	21.3%	↘20.9%
8位	南河内医療圏	20.9%	↘20.5%
	広域連合全体	22.4%	↘21.9%

※順位の変動なし

患者割合(総患者数に占める割合)

順位	地区	平成30年度	令和元年度
1位	大阪市医療圏	82.7%	→82.7%
2位	堺市医療圏	79.7%	→79.7%
3位	中河内医療圏	78.9%	↗79.0%
4位	泉州医療圏	78.9%	→78.9%
5位	豊能医療圏	78.7%	→78.7%
6位	三島医療圏	78.7%	→78.7%
7位	南河内医療圏	78.5%	→78.5%
8位	北河内医療圏	78.2%	↗78.3%
	広域連合全体	79.9%	→79.9%

※順位の変動なし

患者一人当たり的高齢者の疾病医療費（円）

順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度
1位	泉州医療圏	285,214	泉州医療圏	↗289,178
2位	堺市医療圏	279,362	堺市医療圏	↘273,560
3位	三島医療圏	260,762	大阪市医療圏	↗260,977
4位	大阪市医療圏	259,691	三島医療圏	↘256,960
5位	豊能医療圏	243,239	豊能医療圏	↗243,539
6位	中河内医療圏	231,381	北河内医療圏	↗234,517
7位	北河内医療圏	229,890	中河内医療圏	↗232,061
8位	南河内医療圏	227,149	南河内医療圏	↗228,357
	広域連合全体	253,077	広域連合全体	↗253,731

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

高齢者の疾病における分析では、総医療費に占める割合と患者一人当たりの医療費が高いのは、泉州医療圏と堺市医療圏で、堺市医療圏は介護認定率も高い。

堺市医療圏では、医科健診受診率・歯科健診受診率が低く、生活習慣病治療中断者も少なくないことから、高齢者の疾病が多いことも介護認定率の高さに関連しているようである。

適切な健診受診と受療および重症化予防の取組が必要である。

II. 課題把握

11. 受診行動適正化

- ① 重複受診者割合
 重複受診者割合は2.88%（前年度2.91%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で3.45%（前年度も大阪市医療圏で3.44%）、最も低いのは北河内医療圏で2.32%（前年度も北河内医療圏で2.36%）である。
- ② 頻回受診者割合
 頻回受診者割合は2.81%（前年度3.06%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で4.12%（前年度も大阪市医療圏で4.54%）、最も低いのは南河内医療圏で1.85%（前年度も南河内医療圏で2.06%）である。
- ③ 重複服薬患者割合
 重複服薬患者割合は5.86%（前年度5.15%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で6.12%（前年度も豊能医療圏で5.45%）、最も低いのは北河内医療圏で5.56%（前年度は泉州医療圏で4.98%。北河内医療圏は5.16%）である。

重複受診患者割合（総患者数に占める割合）					頻回受診患者割合（総患者数に占める割合）				
順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度
1位	大阪市医療圏	3.44%	大阪市医療圏	↗3.45%	1位	大阪市医療圏	4.54%	大阪市医療圏	↘4.12%
2位	豊能医療圏	3.13%	豊能医療圏	↘3.01%	2位	中河内医療圏	3.28%	中河内医療圏	↘3.12%
3位	堺市医療圏	2.84%	泉州医療圏	↗2.78%	3位	北河内医療圏	2.62%	北河内医療圏	↘2.43%
4位	泉州医療圏	2.76%	中河内医療圏	↗2.76%	4位	堺市医療圏	2.49%	堺市医療圏	↘2.32%
5位	中河内医療圏	2.75%	堺市医療圏	↘2.74%	5位	三島医療圏	2.35%	三島医療圏	↘2.19%
6位	三島医療圏	2.69%	三島医療圏	↘2.62%	6位	豊能医療圏	2.34%	豊能医療圏	↘2.10%
7位	南河内医療圏	2.47%	南河内医療圏	↘2.46%	7位	泉州医療圏	2.20%	泉州医療圏	↘2.04%
8位	北河内医療圏	2.36%	北河内医療圏	↘2.32%	8位	南河内医療圏	2.06%	南河内医療圏	↘1.85%
	広域連合	2.91%	広域連合	↘2.88%		広域連合	3.06%	広域連合	↘2.81%

重複服薬患者割合（総患者数に占める割合）				
順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度
1位	豊能医療圏	5.45%	豊能医療圏	↗6.12%
2位	大阪市医療圏	5.23%	大阪市医療圏	↗5.99%
3位	北河内医療圏	5.16%	三島医療圏	↗5.94%
4位	中河内医療圏	5.06%	南河内医療圏	↗5.91%
5位	堺市医療圏	5.05%	中河内医療圏	↗5.77%
6位	南河内医療圏	5.03%	堺市医療圏	↗5.76%
7位	三島医療圏	5.00%	泉州医療圏	↗5.72%
8位	泉州医療圏	4.98%	北河内医療圏	↗5.56%
	広域連合	5.15%	広域連合	↗5.86%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

Ⅱ.課題把握

12. ジェネリック医薬品普及率分析

- ① ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)
ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)は44.7%（前年度42.5%）である。地区別で最も高いのは三島医療圏で47.9%（前年度も三島医療圏で45.7%）、最も低いのは南河内医療圏で42.4%（前年度も南河内医療圏で40.1%）である。
- ② ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)
ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)は71.7%（前年度68.7%）である。地区別で最も高いのは三島医療圏で75.2%（前年度も三島医療圏72.2%）、最も低いのは南河内医療圏で69.7%（前年度も南河内医療圏で66.8%）である。
- ③ ジェネリック医薬品切替可能数量割合
ジェネリック医薬品切替可能数量割合は17.0%（前年度18.9%）である。地区別で最も高いのは中河内医療圏で18.1%（前年度は泉州医療圏で20.2%。中河内医療圏の前年度は19.8%）、最も低いのは三島医療圏で14.8%（前年度も三島医療圏で16.7%）である。

ジェネリック普及率【金額ベース】
(3月時点・直近1カ月)

順位	地区	平成31年3月	令和2年3月
1位	三島医療圏	47.6%	↘47.4%
2位	北河内医療圏	45.8%	↘45.1%
3位	堺市医療圏	45.3%	↘45.1%
4位	大阪市医療圏	43.9%	↗44.2%
5位	豊能医療圏	43.0%	↗43.6%
6位	泉州医療圏	42.8%	↗43.1%
7位	中河内医療圏	42.1%	↗42.7%
8位	南河内医療圏	41.8%	↗42.7%
	広域連合全体	44.0%	↗44.2%

※順位の変動なし

ジェネリック普及率【数量ベース】
(3月時点・直近1カ月)

順位	地区	平成30年3月	令和2年3月
1位	三島医療圏	73.8%	↗76.9%
2位	北河内医療圏	71.8%	↗74.8%
3位	堺市医療圏	70.9%	↗73.8%
4位	大阪市医療圏	70.3%	↗73.3%
5位	泉州医療圏	69.4%	↗72.1%
6位	中河内医療圏	69.0%	↗72.1%
7位	豊能医療圏	68.4%	↗71.9%
8位	南河内医療圏	68.2%	↗71.2%
	広域連合全体	70.2%	↗73.3%

※順位の変動なし

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

Ⅱ.課題把握

13. 薬剤併用禁忌分析・多剤服薬者に係る分析

- ① 薬剤併用禁忌割合
 薬剤併用禁忌患者割合は4.0%（前年度4.1%）である。地区別で最も高いのは中河内医療圏で4.6%（前年度も中河内医療圏で4.7%）、最も低いのは三島医療圏で3.0%（前年度も三島医療圏で3.2%）である。
- ② 多剤服薬者割合
 被保険者に占める長期多剤服薬者割合は16.9%（前年度17.6%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で17.6%（前年度も豊能医療圏で18.4%）、最も低いのは三島医療圏で16.0%（前年度は北河内医療圏で16.71%。三島医療圏の前年度は16.72%）である。

薬剤併用禁忌割合

順位	地区	平成30年度	令和元年度
1位	中河内医療圏	4.71%	↘4.60%
2位	大阪市医療圏	4.67%	↘4.59%
3位	泉州医療圏	4.25%	↘4.11%
4位	北河内医療圏	3.83%	↘3.70%
5位	豊能医療圏	3.75%	↘3.65%
6位	堺市医療圏	3.63%	↘3.51%
7位	南河内医療圏	3.47%	↗3.51%
8位	三島医療圏	3.25%	↘3.02%
	広域連合全体	4.09%	↘3.98%

※順位の変動なし

多剤服薬者割合

順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度
1位	豊能医療圏	18.4%	豊能医療圏	↘17.6%
2位	大阪市医療圏	17.9%	南河内医療圏	↘17.3%
3位	中河内医療圏	17.8%	泉州医療圏	↘17.2%
4位	泉州医療圏	17.8%	大阪市医療圏	↘17.2%
5位	南河内医療圏	17.7%	中河内医療圏	↘16.8%
6位	堺市医療圏	17.2%	堺市医療圏	↘16.4%
7位	三島医療圏	16.7%	北河内医療圏	↘16.0%
8位	北河内医療圏	16.7%	三島医療圏	↘16.0%
	広域連合全体	17.6%	広域連合全体	↘16.9%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

Ⅱ.課題把握

14. 在宅医療に係る分析

- ① 在宅医療患者割合(医科)
在宅医療患者割合(医科)は10.7%（前年度10.3%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で11.9%（前年度も豊能医療圏で11.5%）、最も低いのは泉州医療圏で9.2%（前年度も泉州医療圏で8.8%）である。
- ② 在宅医療患者割合(歯科)
在宅医療患者割合(歯科)は7.3%（前年度7.1%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で7.8%（前年度は豊能医療圏で7.8%。大阪市医療圏の前年度は7.6%）、最も低いのは北河内医療圏で6.3%（前年度も北河内医療圏で6.2%）である。
- ③ 介護の要因となる疾病を持つ患者割合
介護の要因となる疾病を持つ患者割合は68.8%（前年度69.0%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で69.4%（前年度も大阪市医療圏で69.8%）、最も低いのは堺市医療圏で66.3%（前年度も堺市医療圏で66.6%）である。

在宅医療患者割合(医科)			
順位	地区	平成30年度	令和元年度
1位	豊能医療圏	11.5%	↗11.9%
2位	大阪市医療圏	10.9%	↗11.2%
3位	中河内医療圏	10.6%	↗10.8%
4位	堺市医療圏	10.2%	↗10.3%
5位	南河内医療圏	10.0%	↗10.2%
6位	三島医療圏	9.4%	↗9.7%
7位	北河内医療圏	9.2%	↗9.5%
8位	泉州医療圏	8.8%	↗9.2%
	広域連合全体	10.3%	↗10.7%

在宅医療患者割合(歯科)				
順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度
1位	豊能医療圏	7.8%	大阪市医療圏	↗7.8%
2位	大阪市医療圏	7.6%	豊能医療圏	→7.8%
3位	南河内医療圏	7.2%	南河内医療圏	→7.2%
4位	中河内医療圏	6.9%	中河内医療圏	↗7.2%
5位	堺市医療圏	6.8%	堺市医療圏	↗6.9%
6位	三島医療圏	6.6%	三島医療圏	↗6.7%
7位	泉州医療圏	6.4%	泉州医療圏	↗6.4%
8位	北河内医療圏	6.2%	北河内医療圏	↗6.3%
	広域連合全体	7.1%	広域連合全体	↗7.3%

※順位の変動なし

介護の要因となる疾病を持つ患者割合				
順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度
1位	大阪市医療圏	69.8%	大阪市医療圏	↘69.4%
2位	泉州医療圏	68.3%	中河内医療圏	→68.2%
3位	中河内医療圏	68.2%	三島医療圏	↘68.0%
4位	三島医療圏	68.1%	泉州医療圏	↘67.9%
5位	豊能医療圏	67.2%	豊能医療圏	↘67.0%
6位	北河内医療圏	66.9%	北河内医療圏	↘66.8%
7位	南河内医療圏	66.9%	南河内医療圏	↘66.5%
8位	堺市医療圏	66.6%	堺市医療圏	↘66.3%
	広域連合全体	69.0%	広域連合全体	↘68.8%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

Ⅱ.課題把握

多受診者（重複受診者・頻回受診者・重複服薬患者）の受診行動適正化と薬剤併用禁忌・多剤服用者の適正化については、すべてのレセプトを保有する広域連合と市町村が主導となり、適正化を進めるべき事業であると考えます。

特に重複服薬や多剤の状況にある場合、副作用からふらつきや転倒から骨折に至り、要介護状態となる可能性も高くなるので、指導が必要である。

ジェネリック医薬品普及率（数量ベース）は71.7%（前年度より3.0ポイント増）で、国が定める現在のジェネリック医薬品普及率目標80%以上を達成していない。切替え勧奨を行い普及率の向上と医療費の削減を図る必要がある。

Ⅱ. 課題把握

データヘルス計画【総括】 「課題整理と今後の方向性」

健康診査の受診率の向上

年度通年有資格者の健康診査受診率を見ると、平成30年度の市区町村の受診率で最も低いところでは9.3%(西区)、最も高いところでは49.0%(豊能町)となっており、受診率の差は39.7%と大きな開きがあります。また、令和元年度の市区町村の受診率で最も低いところでは9.2%(浪速区)、最も高いところでは51.0%(豊能町)となっており、受診率の差は41.8%と大きな開きがあります。
(※)

今後は受診率の低い市町村の未受診者から優先的に勧奨通知業務等を行い受診率の向上を図り、生活習慣病の早期発見に努めることが必要と考えられます。

※令和元年度の受診率は、除外対象者を除いた受診率となっています。

歯科健康診査の全域実施

歯科健康診査においては平成29年度までは、一部の市町村においてのみ実施していましたが、平成30年度より大阪府広域連合が主体となり全市町村で実施しています。

歯科健康診査の受診率を見ると、平成30年度の市区町村の受診率で最も低いところでは6.7%(岬町)となっており、令和元年度の市区町村の受診率で最も低いところでは5.9%(岬町)となっているため、被保険者への歯科健康診査の広報活動に努め受診率向上を図ることが必要と考えられます。また、平成30年度の市区町村でEAT10が3点以上に該当した割合は大阪府広域連合全体では10.6%、最も高い市町村では16.3%(能勢町)となっており、令和元年度の市区町村でEAT10が3点以上に該当した割合は大阪府広域連合全体では10.0%、最も高い市町村では15.2%(能勢町)となっています。口腔機能低下を予防し、健康の保持増進を図ることが必要と考えられます。

重症化予防

後期高齢者医療に加入してから人工透析になるまでの年月数(平成24年6月～平成29年9月作成分)は、2年以上10年未満では67%となっており、人工透析患者の半数以上を占めています。また、透析患者のうち、生活習慣病起因の透析患者の割合も平成30年度は66.8%、令和元年度は67.5%と半数以上を占めています。

健康審査の受診結果やレセプト等のデータを分析し、検査や治療が必要な被保険者に受診勧奨や保健指導をすることで生活習慣病の重症化の予防を図るとともに、高血糖や腎機能が低下している被保険者に対して医療機関へ受診を促すことで人工透析への移行を防止することが必要と考えられます。また市町村の国民健康保険制度の保健事業からの継続した取組みを推進することも必要と考えられます。

Ⅱ. 課題把握

データヘルス計画【総括】 「課題整理と今後の方向性」

ジェネリック医薬品の利用促進

ジェネリック医薬品の使用シェアについては、平成28年度3月通知分は57.18%でしたが、平成30年度は68.7%、令和元年度は71.7%と年々増加しています。

令和2年度(2020年度)中に、80%以上を達成するため、引き続き被保険者への広報活動とともに、大阪府医師会や大阪府歯科医師会、大阪府薬剤師会への協力依頼などさらなる利用促進を図ることが必要と考えられます。

健康づくり対策

「骨・筋骨格系」の疾患を有する被保険者が多いことから、筋力の低下を防いでいくことが重要と考えられます。また、慢性的な持続した痛みを抱えている場合が大きくなるほど、外出を控えるなど心身ともに消極的となります。大阪府の健康寿命が平成25年度において男性70.46歳、女性72.49歳であることから、後期高齢者医療に移行する前の段階から地域に密着した健康づくりの取り組みが必要と考えられます。

また、高齢者は複数の慢性疾患に加え、認知機能や社会的なつながりが低下するといったいわゆるフレイル状態になりやすく、医療機関を受診している被保険者のうち、平成30年度は79.9%、令和元年度も同様に79.9%がフレイルに関連する疾病(高齢者の疾病)で医療機関を受診しています。加えて、被保険者のうち、介護の要因となる疾病(認知症、脳血管疾患、関節疾患、骨折、心疾患)をもつ患者割合は平成30年度は69.0%、令和元年度は68.8%となっています。

高齢者は疾病予防と生活機能維持の両面にわたるニーズを有しているため、一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかな保健事業を実施することが必要と考えられます。市町村と連携して、高齢者の保健事業と市町村が実施する介護予防事業等を一体的に推進し、高齢者のフレイル対策の強化、介護予防に取り組むことが必要と考えられます。